

◇ 理事長メッセージ

念力を超えて



日本 EU 学会理事長
中村民雄（早稲田大学）

4 月より理事長として学会を盛り立てる役となりました中村民雄です。一つの話をつまらなく、抱負を語りたいと思います。

今年 3 月のこと。29 日の Brexit（英国の EU 脱退）日が迫っても、英国議会はメイ政権が EU とまとめた脱退協定案を大差で否決し、次の一手も決することができずにいたそのとき、忽然と現れたのが、ユリ・ゲラーでした。1970 年代にスプーンを念力で曲げる（と称する）パフォーマンスなどで一世を風靡したあの人物です。ちなみに平成生まれの学会員には、ポケモン Go のユンゲラーの人間版とだけ思えば結構です。もっともこの人間版はフーディンに進化せず、また不思議と老化もしないのであります。

そのユリ・ゲラーが 3 月 22 日、「念力で Brexit を止めてやる」宣言を公表。サイコ的に英国民の大半が Brexit を望んでいないと感じた。なればテレーザ、そなたがそれを強いるなら、われ念力でそれを止めん。こうのたもうた。あな、おそろしや。実際、本稿執筆時（憲法記念日）まで止まっているのであります。これは笑いぐさでしょうか。

ならばお尋ねしますが、私たちのどれほどが、念力を超える〈思念力〉をもって、EU 進化史における Brexit の政治・経済的含意や思想的意義

目次

- ◇理事長メッセージ……………中村民雄
- ◇アジア・太平洋 EU 学会 (EUSA-AP) 2019 年上海大会報告
 - ・国際交流委員会……………羽場久美子
 - ・参加報告……………ペリチ・マルツェラ
- ◇国際交流委員会からのお願い
- ◇学会地域部会報告……………関西部会、関東部会
- ◇EU 関連文献紹介（2018 年度発行）
- ◇事務局からのお知らせ
 - ・新入会員一覧
 - ・第 40 回（2019 年度）研究大会暫定プログラム
- ◇広報委員会から
 - ・EU 関連文献紹介コーナーのご案内
 - ・ニューズレター原稿の募集
- 【資料】第 40 回（2019 年度）研究大会プログラム

を論評し、また Brexit と EU の抱える諸問題との関係の有無を体系だって説明できるでしょうか。出来事をなぞり、目先の選択肢や予測にすぎない可能性を語ってお茶を濁していませんか。

いな Brexit だけではありません。そもそも EU なる存在を、単に集権的統合ありきの目線でのみ語るのではなく、集権的統合も脱統合や差異化もどちらも同時にありうるといった目線や、欧州茶碗の中の嵐とグローバル風を吹かせる目線からも、ためつすがめつ、思念し分析しているのでしょうか。分析の道具立てを本当に我々は十分にもっているのでしょうか。自分の目線やモデルすら疑う内省をもって、日々、次なるリサーチに我々は取り組んでいるのでしょうか。

こういう謙虚にして直球の知的探求を以て、私は日本 EU 学会を盛り立てていきたいと思えます。ネット社会の今更、新情報を得るために学会に来る人は多くありません。そうではなく、星屑ほどある情報から玉を瞬時に選別し、星座を描くように学問的方法をもって関連づけて含意を読み解く。さまざまの星座の描き方 (=リサーチ) の強靱さを異なる目線から議論して試してみる。そういう知的刺戟の悦びを求めて、会員は研究大会に来られるのだと思えます。それを実現しましょう。企画に力を入れて学会を盛り上げ、また地方部会で練られた緻密な報告を推挙し、遠くであっても来てよかったと思える研究大会を実現していきたいと思えます。こうして新参の会員であっても発言し報告したくなるような雰囲気をつくりたいと思えます。

どうぞ皆様、ご参画のほど、よろしく願い申し上げます。

(2019年5月3日)



アジア・太平洋 EU 学会 (EUSA-AP) 2019 年 上海大会報告

◇国際交流委員会より

2019年7月6-7日、中華人民共和国・上海・復旦大学にて、EUSA Asia Pacific 第19回大会が開かれた。

2017年には日本・青山学院大学で、2018年には台湾・国立台湾大学で開催され、来年20回大会はニュージーランド・カンタベリー大学で開かれる予定である。

今回の大会は、「New Leadership, New Priorities---The EU in 2019」というタイトルのもと、19セッション、議長・報告者・院生10名を含む110人の報告者によって開催された。日本大会で130名を超える会合が開かれて以来ここ3年間ずっと100名を越えて世界から参加者が集まっており今回も、アジア各地・欧州から多くの参加があった。

1日目午前は、歓迎の挨拶として、復旦大学の大会委員長 Chun Ding 氏、復旦大学の副学長 Renhe Zhang 氏、および EUSA AP 事務局長の Martin Holland 氏が挨拶した。

またキーノート・スピーチでは、韓国大使館特命全権大使の Michael Reiterer と、復旦大学の欧州研究所の名誉所長、Bingran Dai が講演を行った。Reiterer、Dai 氏共に、現在が転換の時期に入っていることを認めつつ、Reiterer 氏は、EU の先見性、創造性、環境問題に関する先駆性、法の支配や自由・民主主義の重要性を訴え、Dai 氏は特に経済的グローバル化の下、EU・中国-US 関係に大きな変化が起こる中、EU・中国関係が今後の世界を安定化させる上で重要な役割を果たしつつあることを強調した。

写真撮影の時には参加者全体の写真に加え、今年はジャン・モネ・チェアの写真撮影があり、18人のジャン・モネ・チェアが写真に納まった。

日本からは田中俊郎先生と羽場が参加した。

各報告では今回は日本から、(五十音順・敬称略) 田中俊郎、八谷まち子、羽場久美子、林秀毅、松浦一悦、山上亜沙美、吉本文(大学院生)、Marcela Perc(大学院生)が参加報告した。参加された方々に心より感謝する。また今回 Marcela Peric さん(クロアチアからの留学生)が大学院生のセッションで報告され、日本 EU 学会からの国際交流若手助成奨励金を受けられた。合わせて感謝したい。

今回の 19 セッションでは、安全保障、法とガバナンス、EU・韓国関係、EU・中国関係 I,II、パーセプション、経済 I,II、EU とアジア、FTA・人権・マルチラテラリズム、持続的成長と気候ガバナンス、比較、EU・中国・US, EU 研究と EUSAAP の歴史(ラウンドテーブル)、EU 内外政策、財政・経済・貿易、および大学院生の 10 報告があった。

セッションでも、EU・中国・US 関係が多く報告されたことは特徴的であった。日本や台湾及びその前の香港の大会では、東アジアないしアジアと EU の関係をどう発展させるかという議論が多かったのに対し、今回は巨大化する中国がアメリカ、EU とどう関係を作るかという観点からの報告が特徴的で、上海での会議らしかったといえよう。

ラウンドテーブルでは、田中俊郎氏を含む、オーストラリア、日本、韓国、ニュージーランドの代表が、来年 20 周年を迎える EUSA AP を、19 年の過去を踏まえ、若手や女性を包摂しつつどう発展させていくかという議論がなされた。

今回はニュージーランドで、第 20 回大会が開かれる。毎回 100 人規模というちょうど顔と顔が見える中規模の会議で、アジア・ヨーロッパから多くの参加者を迎え、昼食時やコーヒー・ブレイクでは、報告内容を含め、旧知の人たちを見つけ若手を育てつつ議論を交わす、という点で、非常に有意義なサブリージョナルな大会として位置づけられよう。

参加・報告された方々、今回国際交流若手助成に応募された方々には、心より感謝する。

今後も多くの会員及び若手の方々の参加を期待したい。ありがとうございました。

(文責：国際交流委員長 羽場久美子)

◇EUSA-AP 2019 上海大会 参加者報告

(慶應義塾大学 後期博士課程
ペリチ・マルツェラ)

2019 年 7 月 6・7 日に中華人民共和国、上海にある復旦大学で開かれた European Union Studies Association Asia Pacific (EUSA-AP) の Annual Conference 「New Leadership, New Priorities - The EU in 2019」では、「Japanese Foreign Policy towards the Republic of Croatia: Preventive diplomacy and post-conflict reconstruction 1994-1997」というテーマのもとに、博士論文の一部をペーパーとして発表した。アジア・オーストラリア・ニュージーランド・欧州の国々から、EU とアジアの関係を研究している 100 人以上の専門家が集まり、議論と交流の機会になった。大会は 2 日間にわたって、セッション・大学院生ワークショップ・ラウンドテーブルというセクションに分けて行われた。

筆者は、大学院生ワークショップの「移住・統合・規範」というセッションにおいて、1994 年から 1997 年にかけて対旧ユーゴ諸国の日本外交政策を中心として EU・日本関係を分析し、報告した。具体的に、ユーゴ紛争の終結の間にクロアチア共和国とボスニア・ヘルツェゴビナ連邦において、日本の外交政策は予防外交をし、紛争後の復興や支援を送ったということを描いた。また、国連と欧州安全保障協力機構 (OSCE) を通して、様々な平和履行プロジェクトに参加し、非軍事的な手段を用いたことを示した。このように、日本の外交によって西バルカン地域が安定し、将来の EU 加盟プロセスが促進されたと

いえる。報告後、聴衆者から有意義なコメントを頂いた。コメントの内容は、どのように論文の議論をより有意義なものにするかということであった。例えば、Nicholas Ross Smith 教授から、日本の支援の金額を説明する際、比較として米国の金額も記入すれば良いではないかというコメントを頂いた。また、八谷まち子教授から、クロアチア共和国への日本の外交政策について図を作るという提案を頂いた。このように、専門家からコメントを頂くのは、研究の質を高める上で、若手研究者にとって重要であり、大変勉強になった。

大会は Asia Europe Journal of European Studies と Australia and New Zealand Journal of European Studies (ANZJES) という 2 つのジャーナルへの投稿を促進している。筆者は ANZJES に学術論文を投稿し、掲載することが決まった。大会への参加を通して、研究が進歩した上に、専門家とのネットワークを作る機会でもなり、大学院生にとって貴重な経験を得た。

国際会議に参加する大事な意義は、専門家からフィードバックを頂くだけではなく、他のアジア地域の大学院生と繋がることでもある。日本の学生は中国と韓国の学生同士と交流することによって、若者のお互いの理解が深まり、これらの国の将来の友人関係の構築や協力を繋がると思う。また、日本に住んでいるヨーロッパ市民として、アジア民族の文化や歴史認識問題の違いについて学ぶことができた。その 3 つの点を考えると、大変有意義であった。

最後に、筆者は日本 EU 学会の国際交流委員会委員長羽場久美子教授と国際交流委員会の皆様に心より感謝を申し上げたい。国際交流助成を受けたことで、大学院生として海外の学会で報告することが可能になった。



国際交流委員会からのお願い

◇国際交流若手助成、後期応募について

今年 2019 年から国際交流若手助成は前期と後期の 2 度の募集となっています。

前期については、Marcela Peric さん、中川洋一さんが合格され、助成を受けられました。

おめでとうございます。

後期は 9 月末日が応募締め切りとなっています。

日本 EU 学会のホームページから、「若手国際交流助成について」の項目をよく読み、必要資料をそろえて、国際交流委員長 羽場久美子宛て資料を PDF 添付ファイルでそろえ、応募してください。ぜひ多くの若手の方々の応募を期待します。どうぞよろしく願いいたします。

国際交流委員会委員長 羽場久美子
委員 井上典之
久保広正



学会地域部会報告

◇関西部会

2019 年 6 月 8 日 (土) 13 時~17 時 30 分に同志社大学今出川キャンパス徳照館 1 階会議室にて日本 EU 学会関西地域部会 (第 2 回) が開催されました。

第 1 部 (13 時~15 時) は、富田 健司会員 (九州大学地球社会統合科学府博士後期課程) に「欧州議会における『ナショナル・ボルシェヴィキ同盟』に関する一考察 - 2016 年 11 月 23 日欧州議会決議に着目して」と題する報告と佐竹 壮一郎会員 (同志社大学法学研究科博士後期課程) に「欧州 (逆) 統合の理論に関する一考察: ポスト機能主義の特質と課題」と題す

る報告をいただいた。

第2部(15時20分～17時20分)では、中川洋一会員(立命館大学非常勤講師)に「21世紀ドイツの安保政策とCSDPへの貢献」と題する報告と和田聡子会員(大阪学院大学)に「フランス産業政策の特徴と課題～日産ルノー統合問題をふまえて～」と題する報告をいただいた。

今回の報告では、1人の報告時間を40分+質疑応答20分を目安に設定し、より深い報告と会員相互間の活発な論議を増やすことを目指した。今回は、西日本のみならず東海や関東からも16名の会員の方々に御参集いただいた。報告者は、期待通りに時間いっぱいを使っての詳細な報告とフローも参加しての活発な討議が行われた。そのみならず、平生は、なかなかお目にかかることのできない先生方や博士課程に在籍中の若手の方々とも交流を図ることができ、地域部会ならではの濃密な交流の場を提供することができたと自負している。特にEU学会の特徴である政治、法律、経済の各分野の方々の間での交流が図れたことは、大きな成果であったと考えている。若手、中堅、ベテランの研究者の方々が、専門分野を超えて啓発し合える地域的なまとまりの場としての地域部会の活用ができたと考えている。

地域部会の試みは、まだ始まったばかりではあるが、今後とも試行錯誤や工夫を凝らして、地域部会の発展に尽くしていきたい

関西部会幹事 鷲江義勝(同志社大学)

◇関東部会

昨年度より、若手会員に研究報告をしていたく場として始めた関東部会の研究会を7月27日(土)に早稲田大学にて開催しました。通算3回目となる今回は参加者約30名と多数の方においでいただきました。まだEU学会員ではな

い方にも参加いただけたことで、EU学会のさらなる発展へとつながっていくきっかけとなることを願っています。

研究会では3人の会員に報告いただきました。第1報告は、木場修司氏(早稲田大学法学学術院助手)が「EU公用語平等待遇の射程と限界—規則1/1958号を中心として—」と題して行いました。本報告ではEU公用語平等待遇は規則1号上、EU法の一般原則ではなく、実際に個人が自らの望む言語でアクセスすることは制限されている点などが明らかにされました。これに対し、討論者のカール・レンツ氏(青山学院大学教授)は知的財産権を事例に、自らの言語で法を理解できることが権利の実現とつながる点などを指摘されました。

第2報告は、植村充氏(東京大学大学院博士課程/法政大学兼任講師)の「EU送還指令の策定とフランスでの国内法化の結果に対する考察」でした。本報告は「欧州化」研究の一事例としてフランスを取り上げて検証し、EU法の国内法化過程で政権与党の選好が強く反映すると主張しました。討論者の小山晶子氏(東海大学准教授)は、フランス国内政治の文脈をより一層踏まえた検討ならびに政策評価基準についての考察の重要性を指摘されました。

最後の第3報告は、畠山佑介氏(森・濱田松本法律事務所)が「EU原産地証明制度の最新動向：日・EU経済連携協定を中心に」と題する報告をしました。畠山氏はEUが締結するFTAにおいて原産地証明制度が第三者証明から完全自己証明へと変化してきていることを示したうえで、TPP11など他の協定と比較しながら日・EU経済連携協定の特徴を明らかにしました。討論者の川瀬剛志氏(上智大学教授)は、以上のような変化が起きる背景について解説したうえで、現実の貿易へのインパクトなど今後検討すべき論点について指摘されました。

各報告に対して会場からも活発な質疑が行われました。懇親会にも多数の方が参加してくだ

さり、そこでも議論が深まりました。若手の意欲的な報告に大いに刺激を受けた方も多かったと思います。報告者、討論者および参加されたみなさまに感謝いたします。また会場の手配などは早稲田大学の大道寺隆也氏にご協力いただきました。感謝申し上げます。

2019年度第2回研究会は2020年2月8日(土)に日本大学で開催予定です。これまでと同様に若手を中心に報告者を募集いたします。募集締め切りは12月20日(金)の予定です。積極的なご応募をお待ちしています。詳細はまたメールおよびホームページでお知らせいたします。

関東部会幹事 土谷岳史 (高崎経済大学)



EU 関連文献紹介

(2018年4月～2019年3月末発行)

井川志郎『EU 経済統合における労働法の課題—国際的経済活動の自由との相克とその調整』旬報社、2019年1月

国際銀行史研究会編『金融の世界現代史—凝集する富・グローバル化する資本取引・派生される証券の実像』一色出版、2018年4月

小島健「欧州通貨統一—ユーロ前史」(第14章) および赤川省吾「ユーロ圏—欧州の失われた10年」(第15章) 載録

須網隆夫編『英国のEU 離脱とEU の未来』日本評論社、2018年11月

中西優美子編『人権法の現代的課題—ヨーロッパとアジア』法律文化社、2019年1月

中西優美子「EU の対外関係において人権を保護するメカニズム」(第1章)、中西優美子訳「EU における基本権レジーム」(第2章)、中

西優美子「EU における共通庇護制度の発展」(第3章)、中西優美子訳「欧州人権条約及びEU 基本権法における非差別の原則」(第4章) 載録

中野聡『社会的パートナーシップ—EU 資本主義モデルの挑戦と課題』日本評論社、2018年12月

中村民雄・須網隆夫編『EU 法基本判例集(第3版)』日本評論社、2019年3月

羽場久美子編『21世紀、大転換期の国際社会—いま何が起きているのか?』法律文化社、2019年1月

羽場久美子「なぜ移民・難民が世界にあふれているのか?」(第1章)、若松邦弘「イギリスはなぜEU からの離脱を選択したのか?」(第2章)、および水島治郎「ポピュリズム拡大の背景は何か?」(第4章) 載録

※編著者(共編著の場合は第一編著者)五十音順)



事務局からのお知らせ

◇ 新入会員一覧

2019年4月の理事会で以下の方が入会を承認されました。

	氏名	所属	分野
1.	大原 俊一郎	亜細亜大学法学部	P
2.	大下 隼	早稲田大学大学院 法学研究科	L
3.	里麻 克彦	大阪学院大学商学部	E

4.	マチェイ・ソ ロコフスキー	慶應義塾大学総合 政策学部	L
5.	中井 愛子	京都大学白眉セン ター・法学研究科	L
6.	小西 杏奈	帝京大学経済学部	E
7.	神原 ゆうこ	北九州市立大学基 盤教育センター	SC
8.	富田 健司	九州大学地球社会 統合科学府博士後 期課程	P
9.	高橋 里枝	慶應義塾大学大学 院法学研究科前期 博士課程	L

◇第40回(2019年度)研究大会について

開催校：神戸大学

日程：2019年11月16日(土)・17日(日)

共通論題：「変貌する時代のEU-統合の新たな探求」

本号巻末に資料として暫定プログラムを添付いたします。ご参照下さい。



広報委員会から

◇EU関連文献紹介コーナーのご案内

毎年夏のニューズレターで、前年度内に発行されたEU関連書籍の紹介コーナーを設けています。これは、会員個人の業績をお知らせするものではなく、あくまでも、EU研究にとっての新刊参考文献を広く会員諸氏にご案内することで、情報の共有を図ることを目的としています。当学会会員の執筆による、単著または共著の出版物のみ(紀要、定期刊行物等に掲載のものを除きます)に限定させていただきます。ニューズレターへの掲載は、書名、著者または编者のお名前、出版社、出版年月日のみとさせて

いただきます。随時受け付けますので、皆様からのお知らせをお待ちいたします。前述の情報を、ニューズレター担当広報委員までメールでお知らせください。

◇ニューズレター原稿の募集

広報委員会では、会員の皆様方からのご寄稿を常時募集しています。内容は問いません。ご寄稿いただいた原稿のニューズレターへの掲載については広報委員会にご一任をお願いします。

分量：横書き1200字程度

期限：随時受け付けますが、ニューズレターの夏・冬年2回発行にあわせ、6月末日・12月末日がそれぞれ締切日となります。

提出先：広報委員の伊藤または上田まで、下記のアドレス宛てに添付ファイル(Word)にてお送り下さい。*はアットマーク

〒102-0073 千代田区九段北4-1-7
ニッセイ基礎研究所 伊藤 さゆり
E-mail: sayuriito110@gmail.com

〒461-8641 名古屋市東区筒井2-10-31
愛知大学大学院法務研究科 上田 純子
E-mail: uejun*lawschool.aichi-u.ac.jp

(編集後記)

学会ニューズレター第43号をお届けします。今年度から中村民雄理事長率いる新体制の広報委員会は、4人体制となりました。本号は、臼井陽一郎前広報委員長と、前体制でも広報委員を務められていた上田純子理事のお力添え頂きながら編集を担当致しました。

本号では、7月に開催されたEUSA-AP上海大会の参加報告、EUSA Asia Pacific第19回大会、関西部会、関東部会の開催報告を中心に構成しました。EUSA-APは今年も100名を超える規模で開催され、ペリチ・マルツェラさんは

当学会の国際交流若手助成を利用し、参加されました。昨年度より発足した地域部会は参加者数も増加し、若手研究者の研鑽と会員相互の交流の場を提供するという狙い通りの成果を着実に挙げているように思われます。

広報委員会からのお知らせに記載させて頂いた通り、ニュースレターでは、会員の皆様方からの寄稿も募集しておりますので積極的にご活用頂ければ幸いです。

(伊藤さゆり)

日本 EU 学会ニュースレター 第 43 号
(2019 (令和元年) 年 8 月 30 日発行)
発行 日本 EU 学会 広報委員会
発行責任者 伊藤 さゆり
編集責任者 伊藤 さゆり、上田 純子
細谷 雄一、渡邊 啓貴

【日本 EU 学会事務局】

森井 裕一
〒153-8902 東京都目黒区駒場
3-8-1
東京大学 大学院 総合文化研究科
E-mail : ymorii*ask.c.u-tokyo.ac.jp

(日本 EU 学会 HP アドレス)

日本語 <http://www.eusa-japan.org/>

日本 EU 学会 第 40 回(2019 年度)研究大会
 共通論題 「変貌する時代の EU—統合の新たな探求」

2019 年 11 月 16 日(土)~17 日(日)

会 場: 神戸大学 六甲台キャンパス

第 1 日 11 月 16 日(土) 開場(受付開始) 12:00~

共通論題 「変貌する時代の EU—統合の新たな探求」		
理事会 <11:00~12:50>		
ポスターセッション展示<12:00~>(解説は 11 月 17 日)		
1. 全体セッション第 I 部 <13:00~15:40> 理事長挨拶 30 分(質疑なし) 基調報告以外の報告 各 30 分 質疑 10 分		
報告者	論 題	司会者
(1) 中村 民雄 (早稲田大学)	変貌する時代の EU—統合の新たな探求	井上 典之 (神戸大学)
(2) 網谷 龍介 (津田塾大学)	統合の「社会的次元」再考	
(3) 高屋 定美 (関西大学)	EU 経済ガバナンスの課題と、挑戦	
(4) 由布 節子 (通美・坂井法律事務所)	デジタル時代の EU 競争法政策と日本	
休憩 <15:40~16:00>		
総 会 <16:00~16:20>		
2. Plenary Session II <16:20~17:50> (in English) EU Delegation presentation -20minutes Guest presentation 30 minutes, Discussants 10 minutes each, Discussion 20 minutes		
Presenters	Topics	Chairperson
(Delegation of the European Union to Japan)	TBD	Noriyuki Inoue (Kobe University)
Richard Youngs (Warwick University)	A Democratic Vision for the European Union	
Discussants Takao Suami (Waseda University) Masahiko Yoshii (Kobe University)	Discussion	
懇 親 会 <18:00~20:00>		

第2日 11月17日(日) 開場(受付開始) 10:00~12:00

1. 分科会 <10:00~12:00> 報告時間各30分 質疑10分			
区分	報告者	論 題	司会者
A 政治 分科会	井上 淳 (大妻女子大学)	EUと加盟国の間:漸進する経済通貨同盟	鷺江 義勝 (同志社大 学)
	中村登志哉 (名古屋大学)	ドイツにおける多国間主義と欧州懐疑主義の 相克	
	ヌルガリエヴァ・ リヤイリヤ (長崎 大学)	The EU and China's Strategies in Central Asia: Focus on Energy and Transport	
B 経済 分科会	小西 杏奈 (帝京大学)	欧州共通付加価値税創設過程の歴史分析 (1958-1959年) — 加盟国間の財政・租税 政策の協調は可能か?	小島 健 (東京経済 大学)
	松浦 光吉 (神戸大学)	ポーランド経済の現状と課題	
	田中 晋 (日本貿易振興機 構)	EUの新しい FTA 戦略と効果監視メカニズム の導入	
C 自由論題 「シンボ形 式:EUと 中東欧」	小山 洋司 (新潟大学)	EU 周縁国からの人口流出と過疎化	小山 洋司 (新潟大学)
	松澤 祐介 (西武文理大学)	ユーロ圏の「非拡大」 — 中欧諸国のユー ロ導入をめぐる	
	田中 宏 (立命館大学)	欧州ポピュリズムとハンガリーポピュリズムは何 を語っているのか:地域的信任和社会関係資 本	
昼食・休憩/理事会 <12:00~13:30>			
ポスターセッション(報告者との質疑応答あり)<12:00~13:30> (掲示は大会中常時)			
佐竹 壮一郎 (同志社大学・院)	EUにおける「政治化」の分析 — 「欧州化」との関係に着目して		
鈴木 弘隆	欧州経済の動的安定性解析:シンクロナイゼーションの重要性に関して		
千葉 千尋	グローバル変容期における EU の新たな存在意義		
大場 佐和子 (同志社大学・PD)	ボスニア・ヘルツェゴヴィナの憲法改革と EU コンディショナリティ		

総会 <13:30~13:45>		
2. 全体セッション第Ⅲ部「リスボン条約10年と今後の展望」<13:45~15:45> 神戸大学 EU センターと共催共催(一般公開) パネルディスカッション・報告時間各15分		
報告者	論題	司会者
(1) Stephen Day (大分大学)	2019年欧州議会選挙 — 国家をまたぐ志と国家の現実	中村 民雄 (早稲田 大学)
(2) 西達寺隆行 (大阪大学)	リスボン条約10年 — EU法の展開と展望	
(3) 太田瑞希子 (日本大学)	ユーロ危機後のユーロ圏経済	
(4) 若松 邦弘 (東京外国語 大学)	イギリス政治のなかの反EU世論	
(5) 討論者 網谷 龍介 高屋 定美 由布 節子	全体コメント	